【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年9月29日(2005.9.29)

【公開番号】特開2004-32185(P2004-32185A)
【公開日】平成16年1月29日(2004.1.29)
【年通号数】公開・登録公報2004-004
【出願番号】特願2002-183205(P2002-183205)
【国際特許分類第７版】
　Ｈ０４Ｒ　1/06
　Ｈ０４Ｒ　9/02
【ＦＩ】
　Ｈ０４Ｒ　1/06　３１０
　Ｈ０４Ｒ　9/02　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月9日(2005.5.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
スピーカのボイスコイルに接続された錦糸線と中継用端子とがはんだ付けされるスピーカ用接続端子構造において、
前記錦糸線を仮固定する仮止爪が前記中継用端子の本体部の端部に該本体部と一体形成により設けられ、
前記本体部には、前記仮止爪から先端方向に配設される前記錦糸線に接触しないようにはんだ付け部が形成されていることを特徴とするスピーカ用接続端子構造。
【請求項２】
前記本体部の先端の一部を延長して形成され、はんだ付け部をなす突片を有し、
前記仮止爪は、前記突片の延長方向の端部に形成されていることを特徴とするスピーカ用接続端子構造。
【請求項３】
前記本体部における前記錦糸線のはんだ付部には、該錦糸線を挿入する孔が形成されていることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のスピーカ用接続端子構造。
【請求項４】
前記本体部における前記錦糸線のはんだ付部には、該錦糸線を挿入する切込部が形成されていることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のスピーカ用接続端子構造。
【請求項５】
前記本体部における前記錦糸線のはんだ付部には、該錦糸線を仮固定するクランプ爪が該本体部から切り起して一体形成されていることを特徴とする請求項１または請求項２に記載のスピーカ用接続端子構造。
【請求項６】
前記本体部における前記錦糸線のはんだ付部と前記仮止爪の間には、はんだの流れを防止する流れ防止孔が形成されていることを特徴とする請求項１乃至請求項５のいずれかに記載のスピーカ用接続端子構造。
【請求項７】
前記仮止爪は、前記錦糸線を挟み込むクランプ爪であることを特徴とする請求項１乃至

請求項６のいずれかに記載のスピーカ用接続端子構造。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
【課題を解決するための手段】
本発明は上述の目的を達成するもので、スピーカのボイスコイルに接続された錦糸線と中継用端子とがはんだ付けされるスピーカ用接続端子構造において、前記錦糸線を仮固定する仮止爪が前記中継用端子の本体部の端部に該本体部と一体形成により設けられ、前記本体部には、前記仮止爪から先端方向に配設される前記錦糸線に接触しないようにはんだ付け部が形成されていることを特徴とするものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
また、前記本体部における前記錦糸線のはんだ付部には、該錦糸線を挿入する切込部が形成されていることを特徴とするものである。